

# 「水利」をテーマに“農”と“ふるさとの明日”を考えるキャンペーン 「水利が拓く 実りの明日へ」スタートします。



ユリ

シベリアやソルボンヌ、シェイラなど香りを楽しめる品種が多いですね。用水設備が整備されていることで、水道や地下水のないエリアでも栽培が可能ですね。毎年変わらぬ品質を保つために、心を込めて育てています。ぜひファンになつてほしいですね。



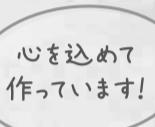
アライ農園  
荒井誠一さん  
(新潟市南区)



アスパラガス

扱い手育成のためのほ場整備をきっかけに、新発田でアスパラガスの栽培がスタートしました。価格の変動が少なく、安定した収入が見込まれるので、とてもありがとうございます。

病気にならないよう目配りしながら、心を込めて作っています。茎が太く甘みがあり、お客様からも喜ばれています。



農事組合法人  
近藤信雄さん  
(新発田市)



酒米

「越神楽(こしかぐら)」は、農研機構北陸研究センターと地元の酒蔵が共同開発した酒米です。品評会向けの酒のほか、大吟醸や純米酒にも使われています。風味豊かなお酒ですよ。

酒米の栽培面積が増えるにつれ、まとまった量の水が必要となっています。柏崎には、水源となるダムがあり、本当に助かっています。



農事組合法人  
矢田営農組合  
石黒芳和さん  
(柏崎市)



## 水利施設を礎に自慢の逸品続々と。 農業王国「にいがた」はさらに進化します。



上江用水路(上越市、妙高市)

親松排水機場(新潟市江南区)

実りの秋を迎えて、黄金色に輝く稲穂が風に揺れる広大な平野、新潟は現在コシヒカリに代表されるコメにとって、かつては水はけの悪い低湿地が広がり、「不毛の地」と呼ばれていました。相次ぐ洪水で3年に一度しか収穫できない「三年一作」、食味から鳥が見向きもしない「鳥まだぎ」と酷評されました。

この地を少しでも豊かにしたい。この切実な願いから、江戸後期から昭和にかけ、各地で放水路の開削や河川改修などが行われました。海拔の低い土地から水をくみ上げ続ける排水機場は、生活を洪水などから守る役割も果たしました。

一方、県内には水不足に悩んでいた地域もありました。田畠で水を運ぶために、先人たちが苦労して開削した用水路や農業用ダムなどの水利施設は、今までの地域の農業に欠かせない存在となっています。

農村の環境が整備される中、その恩恵を受け各地で園芸作物のブランド化が進んでいます。

先人から受け継いだ農業への情熱は、今も脈々と受け継がれています。

## 生まれ変わる農地 先人の情熱 今なお

ています。

一方、県内には水不足に悩んでいた地域もありました。田畠で水を運ぶために、先人たちが苦労して開削した用水路や農業用ダムなどの水利施設は、今までの地域の農業に欠かせない存在となっています。

農村の環境が整備される中、その恩恵を受け各地で園芸作物のブランド化が進んでいます。

先人から受け継いだ農業への情熱は、今も脈々と受け継がれています。

農村の環境が整備される中、その恩恵を受け各地で園芸作物のブランド化